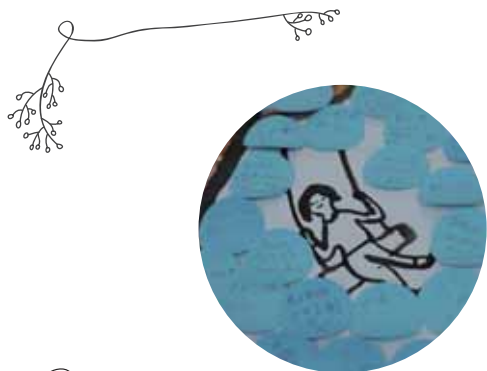




グループでの交流会

最後に、5グループに分かれ、交流会を行いました。
自己紹介から始め、「第2期の取り組みで良かったこと」「第3期に向けて重点的に取り組むべきこと」について、意見を出し合いました。各グループから出た主な意見は次のとおりです。



はぐくむサポーターや市民との報告交流会を開催しました



報告交流会を開催

はぐくむ委員会の活動をする中で「はぐくむサポーター（はぐくむ条例の応援者）の力をもっと生かしたい」「一緒に協働していきたい」という声がありました。
そこで、第2期提言書提出に併せて、はぐくむサポーターを含む市民の参加を募り、報告交流会を開催しました。
当日は、はぐくむ委員、はぐくむサポーター、市民、市職員など36人が参加しました。



はぐくむ委員 市民 市職員

意見交換

「はぐくむ委員」「市民」「市職員」がそれぞれの立場で意見を出し合い、はぐくむ条例の在り方について考えました。



企画段階から市民と行政が協働することで、やらされ感や負担感が減るのではないかと。



子どもたちに条例を知ってもらうために小学生に1人1部パンフレットを配布してはどうか。



取り組んでいる人の満足度、モチベーションを上げるために協働事例の認定制度を設けてはどうか。



やさしい日本語を使ってわかりやすい発信を。子どもや外国人にもはぐくむ条例のことを知ってもらうことが大事。



市職員の協働研修は、実際に協働につながったかどうか、フィードバックが必要ではないかと。



▲はぐくむ委員会オリジナルキャラクター（左から 柿子さん、友造さん、育代さん）

報告交流会では、まず、はぐくむ委員会から市長に提言書を提出しました。
はぐくむ委員会は、これまで、はぐくむ条例の基本原則である「情報共有」「市民参画」「協働のまちづくり」の3グループに分かれて活動してきました。
提言書では、グループ活動の中からまとめた、現在の課題に対する具体的な解決方法を、各グループで提案しています。



提言書の提出

活動報告

次に、各グループの活動報告を行いました。報告の一部を紹介します。
「情報共有」グループ
各種アンケートから、実際には協働しているのに、協働しているという実感がなく、ということがわかりました。そのため、具体的な協働事例を紹介する用紙を作成しました。

「市民参画」グループ

すこやか橋本まなびの日のブース出展では、説明パネルにふりがなを付けました。子どもの頃から「協働」を意識するには、子ども用パンフレットの作成・活用が必要です。

「協働のまちづくり」グループ

市職員の研修とはぐくむ委員との協働研修を行いました。
「橋本市協働の基本指針」は、平成20年に作成されたものです。具体的な行動指針のようなものが必要です。

あなたも

はぐくむサポーターになりませんか？

第3期はぐくむ委員会が始まりました。第2期の活動も引き続きながら、協働のまちづくりの推進に努めます。
少しでも協働に興味を持った人は、はぐくむサポーターに登録をしてみませんか。

はぐくむサポーターは、「橋本市の自治と協働をはぐくむサポーター登録制度」で、はぐくむ条例の応援をしてくださる人、協働のまちづくりに積極的に参加していただける人に登録していただき、はぐくむ委員会の活動や協働に関する情報を提供しています。

登録方法など、詳しくは市ホームページ（下の二次元コード）を確認していただくか、お問い合わせください。



●お問い合わせ
地域振興室
☎ 33-711-17